

各教科等における「感染症対策を講じたとしてもなお感染リスクが高い
学習活動」への対応（感染拡大局面時における基準）

須賀川市立西袋第一小学校

■ 期間 1月19日（火）～

■ 「本校としては、レベル2段階・拡大局面時として対応する」

1 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の 感染レベル	身体的距離の確保	特設部活動 (委員会・鼓笛等の活動を含む)
レベル1	1mを目安に <u>学級内で最大限の間隔</u> をとること。	十分な感染対策を行った上で実施する。
レベル2 (拡大局面時) (収束局面時)	1mを目安に <u>学級内で最大限の間隔</u> をとること。	感染リスクが低い活動から徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底する。

2 地域レベルによる「感染リスクが高い学習活動への対応」

【教育活動の基本的な考え方】

学校の教育活動の実施の可否や在り方は、県単位の感染状況ではなく、児童生徒等及び教職員の生活圏（児童生徒の通学圏、日常的な行動範囲、保護者の通勤圏、教職員の在住地の状況）における蔓延状況により判断する。

地域の感染レベル	実 施 基 準
レベル1	可能な限り感染症対策を行った上で実施することを検討する。
レベル2	拡大局面時 ・感染リスクの高い活動を停止する。
	収束局面時 可能な限り感染防止対策を行った上で、 <u>リスクの低い活動から徐々に実施</u> することを検討する。

本校としては、文部科学省の基準や県教育委員会の考え方にに基づき、生活圏と考えられる「須賀川市及び郡山市の感染状況」からレベルを判断し、学習における活動の必要性や感染リスクの高さ、さらに、「ソーシャル・ディスタンス」等の対応可能な現状を踏まえて、「感染リスクが高い学習活動」への対応を決定する。

3 本校としての「感染リスクが高い学習活例への対応」

教科	文部科学省が示した活動例	本校としての対応 (レベル1)	本校としての対応 (レベル2)	本校としての対応 (レベル3)
全般	児童が <u>長時間、近距離</u> で対面形式となるグループ活動	○マスクをして <u>できる限り距離</u> を取り行う。	●長時間・近距離での対面形式の学習活動は <u>行わない</u>	●行わない。
	<u>近距離</u> で一斉に <u>大きな声</u> で話す活動	○マスクをして同じ方向であれば2m以上、対面する場合は4m以上の距離を取り行う	●近距離かつ大声で話す学習活動は <u>行わない</u> (朝の歌はBGMを流し、マスク着用で口ずさむ)	●行わない。
理科	児童同士が、 <u>近距離</u> で活動する実験や観察	○ <u>マスク着用</u> で、 <u>できる限り距離</u> を取り、 <u>密にならないよう工夫</u> して行う		●行わない。
音楽	室内で児童が <u>近距離</u> で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏	○「合唱」はマスクをして行う。 ○リコーダー、鍵盤ハーモニカの演奏は、 <u>できる限り距離</u> を取り行う。	●合唱、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏は <u>行わない</u>	●行わない。
図工	児童同士が <u>近距離</u> で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動	○ <u>できる限り距離</u> を取り行う。	● <u>近距離</u> での活動は <u>行わない</u>	●行わない。

家庭	児童同士が近距離で活動する調理実習	○感染対策を講じて行う。	●調理実習は行わない	
体育	児童が密集する運動	○できる限り距離を取り行う	○可能な限り屋外で行う、屋内で行うときは呼気が激しくなるような運動は避ける ○できる限り距離を取り、短時間で行う(2～3人程度まで)	●行わない。
	近距離で組み合ったり接触したりする運動	○感染対策を講じて行う	●身体接触のある運動は行わない	●行わない。
休み時間・すこやかタイム	児童が密集する遊び	○できる限り距離を取り行う	○屋外で遊ぶ場合も必ずマスクを着用する ○昇降口が混んでいる時は間隔をあけて待たせる	●行わない。
	近距離で組み合ったり、接触したりする遊び	○感染対策を講じて行う	●身体接触が起こるような遊びは行わない	●行わない。

※ 体育の授業においては、基本的にはマスクの着用は必要ない。ただし、児童間の間隔を十分に確保すること、呼吸が激しくなる運動は避け、熱中症に十分に注意すること、その他感染防止対策が十分に取れない場合はマスクを着用する。

※ 上記の学習活動を行う際は、「密閉」を避け、「3密」が重ならない学習環境をつくるための最大限の努力をする。

※ 個人（自分）の教材教具を使用し、児童同士の貸し借りはしない。また、器具や用具を共用する場合は、使用前後に手洗いをさせる。

※ 「ソーシャル・ディスタンス」を身に付けさせるために

- 児童に「ソーシャル・ディスタンス」を意識することの大切さを知らせる指導を、根気強く続ける。(意識化と実行・定着)
- 教師自身が、学校生活や教科指導の中で、児童の「密集」「密接」を避ける指導を常に意識し、実践する。